



「誰か」のこと じゃない。



人権週間
12月4日-10日

後期人権教育月間

「いじめに出会ったとき、どうすればいじめをなくせるか」

11月1日(木)に校長講話がありました。内容は「いじめの構造」から「どうすればいじめをなくせるか?」という話でした。「いじめを受けている人」「いじめをする人」「傍観者」というそれぞれの立場の人の意識を聞くと、同じ立場でも、人の心の中は様々でした。でも、心の中はどうであれ、よくないと思っていなくてもいじめ行為をすれば「いじめをする人」です。いじめを見て面白がる人も「いじめをする人」です。いじめを受けている人の気持ちに寄り添って、やめさせたいと思っていなくても、何も行動しなければ「傍観者」です。では「いじめを受けている人」は、どのように感じているのかというと、いじめている人も傍観者も、全く同じ存在なのです。いじめ行為もつらいですが、誰も自分を助けてくれない、誰も自分のことを心配してくれない、こうした、自分はたった一人である、という孤独な状況は、いじめの行為以上につらいことです。「いじめを受けている人」からすると、いじめをする人も、傍観者も自分を苦しめている同じ存在です。では、どのようにいじめをなくしていくのか。

いじめがなくなる「一番の理由」は何でしょうか?「先生が、いじめている人を厳しく注意する」これは違います。いじめている人を厳しく注意しただけで、いじめを完全に解決するのは、難しいです。いじめがなくなる「一番の理由」は、一言で言えば「いじめの構造」がなくなることです。どういうことかということ、傍観者が「支える人」になるということです。傍観者の立場にいた、「いじめをやめさせたいと考えていた人」が、「支える人」に変わることで、そして、つられていじめをしていた人がいじめ行為をしなくなり、やがて、いじめの構造は跡形もなくなるということです。「傍観者」が、「支える人」に変わるといいましたが、「傍観者」と「支える人」の違いは、何でしょうか?それは、行動するかどうかです。ではどんな行動をするかということ、まず、いじめのことについてなくしたいと友だち同士で相談する。次に、「大人に相談する」、さらに「仲間にはたらきかけ、支える仲間を増やしていく。」です。仲間に話してみると、同じ気持ちでいた人が、何人もいるはずで、そして、「いじめを受けている人を一人にしないように、いつも行動をともにする。」嫌がらせの行為から守るためでした。支えるとは勇気を持って行動すること、それが「支える人」になるということです。

まとめると

◇もし、これから皆さんがいじめに出会ったら、どうすればよいか。

傍観者の立場にいたのであれば、傍観者から、支える人になるということです。具体的には、まず、仲間同士で、「あれは、おかしい」と声にあげる。大人の力を借りる。(先生に相談する。)先生の力も借りて、支える側の仲間を増やす。そして、仲間とともに行動に移す。

◇いじめをうける立場だったら

あなたは何も悪くありません。我慢をしてはいけません。先生でも、家の人でも、友だちでも、とにかく誰かに訴えてください。

◇そして「今、自分の周りにいじめはないか?」「もしいじめがあるとしたら、自分はどの立場か?」

「自分は、今、何をすべきか?」最後に、私はいじめは絶対に許しません。もし、いじめがあるならば、先生たちと一緒に、徹底的に戦います。人権の学習では様々な差別を学ぶと思いますが、まず青木中からいじめという人の人権を踏みこむ行為を完全になくしていきましょう。

11月は後期人権教育月間でした。各学年いろいろな内容を学習しました。今月号は、その紹介をします。それをきっかけに、ぜひ、人権について改めてご家庭や地域で話してみてください。

◇◇◇◇◇12月の予定◇◇◇◇◇

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1日(金) 地区生徒会 | 5日(火) 薬物乱用防止教室 |
| 6日(水)~12日(火) 保護者懇談会 | 12日(火) 3年議会訪問 |
| 13日(水) 学校集金振替日 | 14日(木) 生徒総会 |
| 15日(金) 生徒会引継会 | 20日(水) 青春の集いリターンズ |
| 22日(金) 全校芸術 | 27日(水) 2学期終業式・賞状伝達式 |
| 28日(木)~1月8日(月) 年末休業 | |



1年生あすチャレ

1年はあすチャレ!ジュニアアカデミーを受講しました。「障がいを抱える方と平等に遊ぶために必要なことを考える体験」を通して、共に生きるということ学びました。パラスリート(トライアスロン競技)の中澤隆さんに講師として来校していただきました。中澤さんは視覚障がいがあり、盲導犬のシュクレちゃんと青木中に来ていただきました。できるできないではなくどうやったらできるかを少しでも考えられるきっかけになったのではないかと思います。

生徒の感想より

○平等というのはすごく大切だと思った。中澤さんがみんなと同じようにビーチフラッグをできるようにチームの人と考えながらできた。

○あすチャレを体験し、何事も工夫をして行動してみたり、積極的に行動したりすることが大切だということを知ることができた。



2年生認知症サポーター講座

青木村地域包括支援センターの方からの紹介で昨年に引き続き2年生は認知症サポーター養成講座を行いました。NPO法人やじろべーの中澤純一さんによる「認知症を理解しサポーターになろう」という講座でした。この学習では、正しく知ることの大切さを、改めて実感しました。

人権学習月間でも、まずは正しく知ることで、そして、自分のこれから生き方についてもじっくり考え合える時間となりました。

生徒の感想より

○私のおじいちゃん、おばあちゃんが認知症になる可能性がとても高いことを知って、向き合い方が大切なことが知れてよかった。動画を見て、自分が孫なのに「あなただれ?」とか言われたら、前の自分だったら悲しくて、自分の感情だけで怒っちゃうことがあると思う。でも、孫を思う気持ちは確かにあって、素直に大切に思ってくれたら向き合い方が変わると思う。中澤先生がおっしゃっていた、「私は認知症の人を信用しているし、大好き」という言葉。この言葉は、長い間認知症の方と過ごしているから言えることだと思うけれど、自分も認知症の人と関わりを深めたいと思った。よさを見つけない。自分の感情だけじゃなくて、一番はそれの人自身について考えたい。寄り添うって大切だなと思った。

人権講演会「見えないということ」地域参観日

11月2日の地域参観日には人権講演会がありました。視覚障がいのある角谷美由紀さんによる「見えないということ」についてのお話でした。「見えないということ」だけでなく、他者の目線に立って人との関わり方を考えていくことの大切さも感じることができました。

生徒の感想より

○お話をお聞きして、盲導犬とかが入れないお店があったり、視覚障がいのある人が悲しくなるような声をかけられたりするなどと考える必要があると思いました。目の見えない方とかで困っている人がいたら声をかけられる人になりたいなと思いました。

○角谷さんが明るい方で、講演が楽しく聞けた。まだまだ、障がいがある方への偏見があったりバリアフリーが進んでいなかったり、課題がたくさんあることが改めてわかった。



新人戦の結果報告

★剣道部 2名の選手が個人戦に出場 二人とも落ち着いて試合に臨み、最後まで気迫のこもった戦いでしたが、それぞれ2回戦3回戦で敗退でした。中体連本大会での県大会出場を目指し、今後も稽古をがんばります。

★女子バレー部 予選リーグブロック内3位。予選敗退でした。負けはしてしまいましたが、最後までフルセットにもち込み粘り強く戦い抜くことができました。目標を達成できず悔しい結果となりましたが、そのことをバネにしてこれからも頑張り続けます。

★男子バレー部 予選リーグ敗退。シード決めまでは計画的にトレーニングを積み、思った以上の成果が出ていましたが、今回は結果には表れませんでした。春に向けて、フィジカル向上という目標も定まり、新たにスタートをしました。春先にどんなバレーになるか楽しみです。